

戯曲づくり講座のご案内

各高等学校演劇部顧問教諭 様

演劇部員の皆様

県では、舞台芸術に取り組む高校生のために毎年演劇講習会、演劇発表会を実施しています。この取り組みに加え、将来に向けて新たな視点で戯曲が書けるよう高校生対象の戯曲づくり講座を開催します。この講座に第一線で活躍する劇作家を講師に迎え、個性豊かな物語を受講生皆で一から作り上げながら、ありきたりの戯曲にならない考え方、方法論を習得する「高校生のための戯曲づくり塾 ～会話が動けば、演劇が始まる～」を開催します。この講座では、最終的に 10 分から 15 分の戯曲を書き上げ、発表するところまでを目指します。

1 タイトル

「高校生のための戯曲づくり塾 ～会話が動けば、演劇が始まる～」

2 内容

(1) 講師 矢内原美邦 近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻教授 振付家・演出家・劇作家。

1997 年にダンスカンパニーNibroll を結成、代表兼振付家として活動を始め国内外のフェスに招聘される。2005 年には劇作・演出を手がけ、2012 年に第 56 回岸田國士戯曲賞受賞。off-Nibroll 名義で映像美術作家高橋啓祐と美術作品の制作も行い、上海ビエンナーレ、大原美術館、森美術館、仙台メディアテークなどの展覧会に参加。ダンスと演劇、美術の領域を行き交いながら作品制作を行う。15 年文化庁文化交流大使として東南アジア諸国に派遣される。

2010 年 シェイクスピア・コンペ優秀賞受賞

2012 年 第 56 回岸田國士戯曲賞受賞

2012 年 横浜市文化芸術奨励賞受賞 1995 年 4 月 - 1997 年 3 月

(2) 対象

その人にしか書けない戯曲づくりの方法論を習得したいと思う高等学校演劇部の生徒

(3) 募集人数 5 名から 10 名程度

(4) 日程等 (※原則、全日程参加)

1 日目：2027 年 2 月 11 日 (木・祝) 13 時 00 分～17 時 00 分

2 日目：2027 年 2 月 14 日 (日) 13 時 00 分～17 時 00 分

3 日目：2027 年 2 月 21 日 (日) 13 時 00 分～17 時 00 分

4 日目：2027 年 2 月 23 日 (火・祝) 13 時 00 分～17 時 00 分

5 日目：2027 年 2 月 28 日 (日) 13 時 00 分～17 時 00 分

場所：県立青少年センター内 研修室 1 又は 2

(4) 講座内容

矢内原美邦先生と一緒に、セリフだけで関係を書き、説明しないことを学び、改稿と発表を繰り返しながら戯曲にまとめ短い舞台作品を完成させるまでを楽しく学ぶ 5 回連続講座です。

1 日目は、説明しない戯曲から学ぶ会話劇「戯曲って何？」

目標：会話だけで関係を立ち上げることを体験します。

1. 導入：同じ出来事を三つの方法で書く

例として、放課後、友人が約束の場所に来なかった。という出来事を書きます。

戯曲では、A「遅かったね」 B「待ってたの？」 A「別に」のように、人物の感情を説明せず、言葉と行動で見せることを確認します。

○なぜ来なかったのかを台詞でみつける。

2. 二人の関係を書く

次の条件から一つ選び、1～2 分の会話を書きます。

- ・一人は帰りたい。一人は帰したくない。
- ・一人は知っている。一人は知らない。
- ・一人は謝りたい。一人は謝らせたくない。
- ・二人とも同じ物を欲しがっている。
- ・二人とも、本当のことを言っていない。

○誰と誰に見えたか、どこで関係が見えたか、何が分からなかったか。

3. 学校、家庭、駅、コンビニなどで耳にしたり想像したりした、気になる短い会話を三つ記録する。

○そこからテーマを探してみる。

2 日目は、「対立・衝突」を通して演劇・創作を考える。

目標：演劇における「対立」は、怒鳴り合いや喧嘩だけではないことを理解します。

1. 「欲しいもの」を決める

それぞれの人物について、この場面で何が欲しいか 相手に何をしてほしいか 何を隠しているか 何を恐れているか を書きます。

2. 同じ台詞を違う目的で言う

「大丈夫」という言葉を、相手を安心させる 話を終わらせる 助けを求める 怒りを隠す 嘘をつくという異なる目的をつくらせてみる。

○台詞の意味は、言葉そのものだけでなく、誰が、誰に、何のために言うかによって変わることを体験します。

3. 対立のある場面を書く

条件：登場人物は二人、場所は一か所、時間は5分以内、二人の目的は異なる 「怒っている」「悲しい」「好き」という感情語は使わない

4. 身体と距離を加える

会話を読みながら、近づく 離れる 座る 立つ 物を渡す 視線を外すなどを戯曲のト書きを試みます。

○戯曲は台詞だけではなく、人物の身体と空間を書くものであることを確認します。

3 日目は、改稿、演出との関係、短い会話の中での「状態変化」を考える。

目標：会話が続くだけでなく、場面の前後で人物の状態や関係が変わるようにします。

1. 「最初と最後」の確認

場面の最初と最後を比べます。

- ・最初は知らなかったが、最後は知っている ・最初是一緒にいたが、最後は別れる
- ・最初は信じていたが、最後は疑っている ・最初は帰ろうとしていたが、最後は残る
- ・最初は敵だったが、最後に共犯になる
- ・何も変化していない場合は、場面の途中に何を起こせばよいか考えます。

2. 同じ場面を三つの演出で読む

一つの場面を、コメディとして読む サスペンスとして読む とても静かな別れの場面として読む
という三種類で試します。

○作者が書いたつもりの意味と、演出や俳優によって立ち上がる意味は異なることを学びます。

3. 削る改稿

初稿から、説明している台詞 同じことを繰り返している台詞 なくても伝わる台詞 作者しか知らない情報 を探して、全体の 20%程度を削ります。

4. 沈黙を書く

「……」だけにせず、沈黙の中で何が起きているかを考えます。

例：Aは鞆を持つ。 Bは扉の前から動かない。 A「どいて」Bは答えない。

4 日目は、短い戯曲をつなぎ合わせ、構成をつくり戯曲を完成させる。

目標：複数の場面をつなげて、一つの短編戯曲として構成します。

1. 場面カードをつくる

一つの場面を一枚のカードにします。カードには、誰がいるか どこか 何を欲しがっているか 何が変わるか 次の場面に何を残すか を書きます。

2. 場面の順番を入れ替える

時系列どおりに並べるだけでなく、結果から始める 同じ出来事を別の人物から見せる 大事な場面をあえて書かない 時間を飛ばす 同じ台詞を後半でもう一度使う など、高校生らしい構成の工夫を試します。

3. ラストの種類を比較する

同じ作品に三種類の終わり方を書きます。問題が解決する 解決しないまま人物が選択する 最初と同じ台詞が、違う意味で繰り返される 「全部説明して終わる」のではなく、観客に何を残すかを考えます。

4. 通し読み

作品を最初から最後まで読み、作者は途中で説明を加えません。

聞き手は、どこで興味を持ったか どこで関係が変わったか 分からないことは何か 分からなくても面白かったところはどこか を伝えます。

5 日目は、ラストをどう終えるか考え、短い舞台作品を完成、そして発表会です。

目標：完成度を競う発表会ではなく、書かれた言葉が舞台でどう聞こえるかを確かめる発表とします。

参加者みんなで相談しながら、作品をまとめ、リーディング、発表です。

演劇部員の皆さんへ

この講座では、「説明しない、会話で関係が見える、今どうなっている」みたいなことを台詞で考えられるスキルの習得ができます。皆さんは、社会問題と高校生の考え方、メッセージ性、泣ける話の戯曲づくりはできているので、「変な会話でいい、私的でいい、その人にしか書けない」を重視します。

仲間とアイデアを交換しながら、楽しみつつ創作スキルを磨き、会話から立ち上がる劇世界の不思議を一緒に体験しましょう！

こんな人におすすめです。

- ・演劇部での活動をもっと深めていきたい。
- ・自分だけの創作スタイルを見つけ出したい。

また、リーディングを取り入れながら実践的に講義を進めていくので、演者希望の人も取り組みます。ぜひ参加してみてください！

近畿大学文芸学部芸術学科舞台芸術専攻教授 矢内原美邦

* 申込方法は、神奈川県ホームページ（県立青少年センター内）の次のアドレスに掲載していますので、是非、ご覧ください。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/yi4/school/skillup26gikyoku.html>

【問合せ先】 県文化課紅葉ヶ丘駐在事務所兼県立青少年センターホール運営課 平澤

電話：045-263-4475 E-mail: seishonen.c.kikaku@pref.kanagawa.lg.jp

